

令和 8 年 3 月 6 日
一般共同研究委員会

令和 8 年度プラズマシミュレータ共同研究
計算時間及び外部記憶装置容量の年度途中申請及び追加申請のガイドライン

1. サブシステム A

- (ア) 追加申請に対する許可時間は 4,000 ノード時間を上限とする。
- (イ) 年度途中の新規申請に対する許可時間は 8,000 ノード時間を上限とする。

2. サブシステム B

- (ア) 追加申請に対する許可時間は 4,000 APU時間を上限とする。
- (イ) 年度途中の新規申請に対する許可時間は 8,000 APU時間を上限とする。

3. サブシステム C

- (ア) 追加申請に対する許可時間は 2,000 ノード時間を上限とする。
- (イ) 年度途中の新規申請に対する許可時間は 4,000 ノード時間を上限とする。

4. 外部記憶装置 (/data 領域)

- (ア) 追加申請に対する配分量は、既存配分量と合計して1 ユーザー当たり 200 TB を上限とする。
- (イ) 年度途中の新規申請に対しては規定値50TBを一律配分する。

5. 外部記憶装置 (/work 領域)

- (ア) 追加申請に対する配分量は、既存配分量と合計して1 研究課題当たり 1 PB を上限とする。
- (イ) 年度途中の新規申請に対しては規定値200TBを一律配分する。

なお、限りある計算資源をプラズマシミュレータ共同研究の参加者間でなるべく公平に配分する観点から、計算時間および記憶装置容量の追加申請は、現在配分されている配分量の残りが2割程度になってから申請すること。また、追加の必要性に関する具体的な理由の説明を必ず記載すること。各ユーザーの計算資源の配分量は、uresource コマンドおよび check_quota コマンドで確認できる。

年度内に同一研究課題において2回以上の計算時間追加申請を行うことはできない。